

わーく & らいふ

令和7年度第8号(通巻108号) 2月13日発行

【シリーズ】キャリア教育 高等部一般学級 「1年生 現場実習」

高等部一般学級では、11/19～11/28 の7日間、1年生が現場実習を行いました。事前学習4日と事後学習を合わせると4週間でした。

1年生は受注作業の校内実習を6月に行った後、実社会での実習を行います。日頃の自宅や学校、家族や友人と気心知れた中での生活と違い。年代の違う世代の方たちと、作業を行っていきます。

気持ちのいい「挨拶・返事」やきちんとした「身なり」、丁寧な「言葉使い」や「時間・約束」を守る、などの高等部共通の約束事(「キャリアアップチャレンジ5」)を事前学習で学び、より一層意識を高めます。

現場実習では、事前に各事業所に挨拶に行きます。保護者、担任が付き添います。自分で「挨拶、自己紹介、質問」をすることが原則です。同席している保護者、担任は本人の意思や意欲を出せるよう見守ります。その挨拶を行った後は少し自覚や意欲が高まる様子が見えてきます。

現場実習



お菓子の箱折り



車の部品の組み立て



木材の運搬



コーヒーの計量



番重の洗浄



介護施設の清掃

「現場実習後の振り返り、日頃の生活への還元」

「現場実習」を終えてからが重要です。実習で「できたこと」「難しかったこと」を振り返り、自分の課題を見つけます。その課題を次の目標にし、「実習報告会」で発表をします。



家族の方や先生方の前で宣言したことで、家庭や学校が連携し、協力しながら生活で改善できるようにします。

生徒たちの実習後の声をお届けします。



今まで気づけなかったけれど、意外と集中できていた。でも報告がうまくできなかった。



作業で、いろいろな技術を学べたけれど、体調管理ができていなかった。



仕事の手順などの理解ができてうれしかった。でもいざやってみると、意外にも時間がかかってしまい、もたついてしまった。



不得手な面や思ったよりもできたことを生徒たちは冷静に受け止め、話してくれました。社会への第一歩は学校では気づけなかった自分を見せられる場所でもあるようです。新しく発見できたことが大きな収穫ですね。

＜編集後記＞「現場実習」は高等部一般学級の重要な学習で、今まで外に目を向けることが少なかった生徒たちが一気に目覚め、大きく成長できる学習です。家族と買い物に行くお店や商品が誰の手で「作られ、売られる」ようになるのを知ることは「生活や生きる、お金を稼ぐ」ための仕事だと実感できる機会になるからです。実践での学びは大きな力となります。今後の成長が楽しみです。(奥村)